

# 千刈狸の呟き

アナログ狸は、SP・LPという大円盤の愛用者である。SPはクレデンザなる祭壇の横ハンドルを回して悦に入っていたのだが、寄る年波でハンドル回しがきつくなり、うえずたと申す電動に最近では切り替えている。それでもSPはまともなクラシックの曲を聴くのに大円盤を鉄針と一緒に3枚、4枚と変えねばならず、召使でもいる身分でもなければ、音楽を聴くのに優雅にははいられない。

アナログ狸はデジタル嫌いではなく、新しいデジものが大好きで目新しいうちから試すのだが、CDなる小円盤は音を改善するのにわずかな金では良くならない。オーバーサンプリングなる方法で、ヒトが聞こえないと切り捨てた高音を復元するやつが、一番良い音がすると思うのだが、天文学的な値段のやつばかりで閉口する。どうしても聴きたいと思う良い演奏は、CDなんぞない時代のもので、元の大円盤でよかろうと思っていた。

ところが最近、ハイレゾなる、その高音を除いていないやつが普及しだしたので、コリャ都合が良い！と、大円盤をすべて、ハイレゾの一種のDSDというやつに変換してしまった。オーバーサンプリングもハイレゾも、ヒトに聞こえない高音が入っているが、それが聴こえるわけではない。要するにデジタル機器の音の悪さは、階段状の波形をもとの滑らかな波形に変換する（なまらせる）デジタルフィルターに由来するので、それをより高い音のみで済むようにした方が、フィルターが簡単で高性能になりやすいだけである。DSDにしたおかげで、手間は減ったのだが、4TBという、やたら容量の多いハードディスクに沢山の名曲が埋もれているので、聴きたい曲を探すのに苦労する。結局探すのが面倒で、時々は大円盤を回さざるを得ないが、少しは優雅な暮らしに近づいた。

デジタルは劣化が少なく、正確に伝送できる、なんて阿呆なことを言う奴が多いが、実はそうではない。伝言ゲームが正確に伝わりにくいのと同様、デジタル信号もアナログ信号も伝送すれば必ず劣化して歪む。アナログ信号はその歪が波に埋もれてわかりにくくなるが、デジタル信号は歪むと元の波形とまるで変わってしまうのでエラーが見つけやすい。デジタル信号の正確さは、強力なエラー修正にかかっている。CDの出始めに、あるオーディオ評論家が、CDで重要なのはデジタル

## ～アナログ狸のデジタル考～

### アナログ狸

であることではなく、その強力なエラー修正能力である、と言っていた。評論家なんて道理のわからぬ半可通が多いと決まっているが、中には本当の通人も居るものだと感心した。ところが最近では著作権保護のために、わざとエラーを仕込んだりするので、エラー修正能力が低めに設定されている。青ディスクなぞ年々ほこりや指紋にうさくなり、入れ替えるたびに円盤を磨かなければいけなくなった。

狸の世界でもマニュアルやらチェックリストやらデジタル化の波が押し寄せてきているが、エラー修正能力が低い奴が多くて面倒だ。巷では、ブレーキと間違えてアクセルを踏めば、止まらないというエラーが出るのに、それに気づかず、必死にアクセルを踏み続けて狸穴に突っ込み、迷惑をかける奴までいる。狸も診断能力というエラー修正能力がないと大変だ。検体のバーコードを張り間違えて、他人の結果が返ってきて、この検査結果はおかしい！と思うエラー修正能力があれば、重大な結果は避けられるだろうに！

感染症は病原体が証明されたといっても、その病原体による感染症とは限らない！ってのが、当たり前なのだが、そんな基本も忘れた狸が多すぎる。溶連菌は保菌者が5～10人に1人いるし、マイコプラズマは大部分は無症状で、どちらもちゃんと症状が出ていなければ抗生物質投与で除菌はできないので意味はない。インフルエンザが感染しても3分の1はまるで無症状で、実際にインフルエンザといえるような症状がでるのは4人に1人くらいらしい。インフルエンザに感染していても、嘔吐、下痢がひどい場合には、インフルエンザとは無関係の胃腸炎だろう、と英語版wikiには書かれている。

外来でできる手軽な迅速検査が増えたが、検査が陽性だ、陰性だと一喜一憂するのは、阿呆くさい。軽い風邪まで、検査、検査とインフルだらけの狸穴に押し込み、学級閉鎖をせせせと増やす、阿呆な教師まで居る。患者を診て、治療する、ってのが基本なのに、補助手段でしかない検査に振り回されているのは日本の狸だけだ。Japanese Localがすべて悪い、とまでは言わないが、Global Standardは知らない、となれば、井戸に落ちた狸同然、狭い空しか見られない。ここは貞子よろしく、深い井戸の中から這い上がり、だだっ広い空を拝むがよかろう。